

<要 旨>

本研究は、みちのく潮風トレイルの岩手県ルートの開通にあわせ、現地踏査を行い、トレイルマップと現場の不整合をチェックし、利用者に対して適切な情報を提供すること、岩手県ルートの多くが宿泊を伴うロングコースとなることから、御箱崎ルートモデルに宿泊施設における情報提供のあり方を検討すること、宮古駅から浄土ヶ浜までの連絡ルートを検討すること等によりみちのく潮風トレイルの利便性を向上させ、利用の促進を図ろうとするものである。（現在は環境省の計画が遅れたため、研究を継続中である。）

1 研究の概要（背景・目的等）

環境省によるグリーン復興のひとつにみちのく潮風トレイルの整備がある。みちのく潮風トレイルは、2013年11月に青森県蕪島～岩手県久慈市小袖海岸までが開通し、現在岩手県内の宮古市、釜石市で路線の検討が進められている。あらたな交流人口の獲得につながるものとして地元では期待されており、環境省が実施する路線選定のワークショップには多くの市民が参加している。しかしながら実際の受け入れ体制やトレッカーへの情報提供などについては、地元では戸惑いも見られる。

みちのく潮風トレイルは、開通したとはいえ25万分の1地形図上にルートが記されたマップができているのみであり、現地には標識などは設置されていない未完成的な状態にある。昨年度、開通区間の現地調査を行ったところ、マップだけでは迷うところや階上岳のように冬期間は積雪によって通行が困難になる箇所があることが明らかとなった。また、マップ自体にも多くの誤りがあり、情報が少ないなど様々な課題がある。2014年度は岩手県内の宮古市、釜石市など主要な区間が開通するが、同様の課題が生ずるものと思われる。このため、トレイル利用者が現地で道に迷うなどのトラブルに見舞われる恐れがある。

環境省は、路線選定のためのワークショップを開催し、地元の意見をもとに路線を計画している。釜石市では、御箱崎をめぐるルートが推奨モデルルートとして検討されているが、かなり長いルートであるため、1泊2日の行程となる。このため、宿泊拠点が必要であり、根浜海岸の宝来館などが協力を申し出ている。宝来館にはトレイル利用者に対する情報提供機能などさまざまな役割が期待されているが、具体的な提供すべき情報の内容等について模索している状況にある。また、昨年度の研究により、釜石で活動を始めている三陸ひとつなぎ自然学校と協力して漁船を使ったツアーを実施し、参加者からは高い評価が得られたが、この成果を発展させることが求められている。

本研究は、みちのく潮風トレイルの地域におけるこれらの課題を解決するため、

・みちのく潮風トレイル開通区間のマップと現地の不整

合を解消し、行政では提供できない民間の情報などトレイル利用者が必要とする情報を提供する仕組みを検討する。その事例として昨年度の成果を活用し、地元の団体等と連携して、宿泊施設を拠点として御箱崎をめぐる1泊2日のモデルコースを設定し、マップの作成等を行い宿泊型プログラムの可能性、必要な情報提供の仕組みを検討する。（図1）



図1 鶺野住～御箱崎ルート

・みちのく潮風トレイルの宮古区間は、浄土ヶ浜から船で重茂半島に向う計画となっている。久慈、釜石などでは、みちのく潮風トレイルの枝線として市街地を散策するルートが作られている。しかしながら、宮古市では、市街地を経由しない。このため、宮古市内を巡る歩道も全く検討されていない。みちのく潮風トレイル利用者の中には、鉄道あるいはバスで宮古駅に到達しそこから浄土ヶ浜等へ向う可能性がある。このため宮古駅から浄土ヶ浜までの連絡歩道が必要であり、環境省の要望でもあることから駅からウォークなどに活用可能な連絡ルートを検討する。（図2）



図2 宮古駅連絡ルート

2 研究の内容（方法・経過等）

みちのく潮風トレイルは、岩手県内の宮古市、釜石市間が2015年度中に開通の予定である。過去に行った既開通区間の現地調査により、標識が無いため迷うところや雪によって通行が困難になる箇所があること、ルートマップに誤りがあり、必要な情報が少ないなど様々な課題があることが明らかとなっている。また、トレイル踏破には宿泊が必要となるが、宿泊型ツアーモデルや宿泊施設が担うべき役割や情報提供、送迎案内サービス等の受け入れ体制の整備が不十分であり、利便性の向上が求められている。このため、

- ①現地踏査により、みちのく潮風トレイル開通区間のマップと現地の不整合を明らかにし、環境省に対して是正のための情報を提供する。
- ②環境省が1泊2日のモデルコースとして検討している釜石市鶴住居～御箱崎周辺地域をモデルとして、宿泊施設を拠点とする宿泊を伴うモデルツアーを計画し、宿泊型プログラムの可能性、宿泊施設に必要な情報提供、行政では提供できない民間の情報などトレイル利用者が必要とする情報を提供する仕組みを検討する。
- ③宮古駅から浄土ヶ浜をつなぐためのルートを検討するため、市街地の連絡歩道が必要であり、環境省の要望でもあることから駅からウォークなどに活用可能な連絡ルートを検討する。

3 これまで得られた研究の成果

- ①環境省のみちのく潮風トレイル開通が遅れており、マップが作成されていないため、現地踏査による確認を行っていない。なお、計画策定段階で歩道の選定、整備等を行っていることから一部区間については情報を収集済みである。今後トレイルマップが公表され次第現地踏査を行うこととしている。
- ②釜石市鶴住居～御箱崎周辺地域については、ワークショップ等で得られた地域資源情報を現地で確認する作業を行っている。現地踏査により確認した情報をもとにマップを作成している。今後、宿泊施設等と調整し、宿

泊施設におけるみちのく潮風トレイル利用者に対する情報提供、運搬方法等のサービスのあり方について検討する。
③宮古駅から浄土ヶ浜をつなぐためのルートを検討するため、市街地の商店等について調査を行った。鮮魚店、飲食店など地元の市民が利用している特徴ある店舗の探索、宮古市史等の資料による興味地点の探索などを行っている。鮮魚店内には宮古の反映した時代を描いた大きな油絵や往時の町並みのスケッチなどが展示されているなど魅力ある資源が隠されている。(写真1, 2) これらをつなぎ合わせ、より魅力的なルートを探し出しマップを作成することとしている。



写真1 宮古市内の鮮魚店

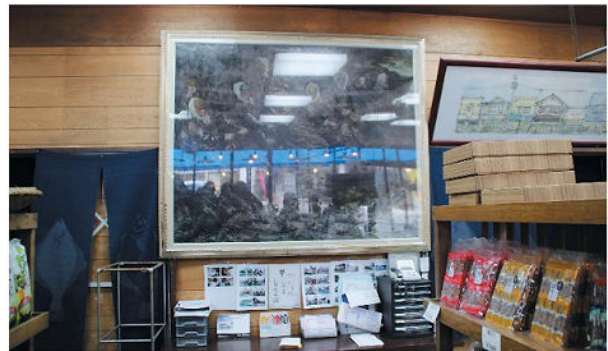


写真2 鮮魚店内の大きな油絵と町並みのスケッチ

4 今後の具体的な展開

みちのく潮風トレイルは、青森県蕪島から福島県松川浦までを結ぶロングトレイルで、地域を歩いて結ぶ心の絆の道とも言えるものである。このうち岩手県内ルートは起伏が激しく難しいコースが多く、集落から離れており、コンビニやトイレなどの利便施設が少ないなどみちのく潮風トレイルのトレッカーにとっては、厳しいルートとなる可能性が高い。このため、数少ない宿泊施設等における適切な情報提供が必要であり、本研究はそのモデルとなるもので他の地域にも拡大することが望まれる。

5 その他

環境省におけるみちのく潮風トレイル整備が遅れていることから研究が遅れており繰り返し手続きを行った。まもなく開通の予定であることから早期に研究を開始する予定である。